

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SES no.076; Introduction

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2010-07-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4157

本書は、平成 21 年度民博機関研究「観光とグローカリゼーション——東アジアの視点から」(代表：韓敏)の研究成果であり、収録した 11 篇の論文は中国昆明で開催された世界人類学・民族学連合大会 (ICAES 2009) において「観光と東アジアのグローカリゼーション」というタイトルの分科会で報告されたものに基づいている。

本書の主題的は東アジア地域の観光現象を総合的に取り上げることによって、この地域のグローカリゼーション(世界化と地方化の同時進行、ロバートソン 1997:16)の実態とメカニズムを解明するものである。政治・経済の均質化が進む中、人々はますます自分らしさ、地域性(locality)、エスニシティ、ナショナリティを意識し、追求して再構築している。本研究は日本や中国を研究対象とする 11 人の人類学者によって構成され、東アジアの観光客、観光地のホスト社会、観光プランナーと行政に焦点を当てて、地域、民族と国の景観、歴史、価値と文化が如何に構築され、表象され、消費されているのかを取り上げ、観光化がホスト社会に与えた影響を検討した。具体的に文化の真正性、文化の所有者と実践者、文化のデザイナー、生産者と文化の消費者などの 이슈に焦点を当て、

- ① 文化所有者と実践者のホスト社会の視点から東アジアにおける観光開発と文化変容
- ② 観光客の視点から空間、時間と文化の体験と消費のあり方とパターン
- ③ 東アジア地域の文化政策と行政の視点からみた歴史、景観、遺産の再構築と再評価を考察した。

本書は 3 部から構成されている。

第 1 部は、ホスト社会に焦点を当てて、横浜中華街の観光開発と地域化される中国文化、長崎の国際観光の展開、中国タイ族の宗教的慣習の観光化、伝統的地方劇である秦腔の観光価値を検討した。

第 2 部は観光客の立場から、観光人による北朝鮮の国境観光、日本人による東アジアと東南アジアの観光パターンと社会性、生存戦略、ライフスタイルとしての日本人による東南アジアの長期旅行、旅行写真を通して旅行者と写真旅行者の語り、写真家としてのアイデンティティの確立、旅における新たな人間関係構築の可能性を取り上げた。

第3部は行政側の文化政策と観光エンジンから日本の「里山」と農村の観光開発、フランス発のエコ博物館理念と中国の文化生態村の実践、西安の都市観光プロジェクトと「回民街」(イスラム教徒の町)の再建、雲南の観光お土産の生産と消費をめぐる外部の機械による大量生産と地元の伝統的手工業の競争を分析した。

本書はグローバルな視点から国際的に注目され、急成長している東アジアの観光について民族誌的な記述を行い、総合的な分析を行なった初論文集である。SES による成果の刊行は、民博を中心とする日本の東アジアと観光に関する研究の最新成果を世界に発信するものであると同時に、東アジアと観光に関する人類学研究の展開に新たな資料と視点を提供するものであると考えられる。